

所属・資格 心理学科・准教授

申請者氏名 齋藤 慶典

研究課題		Appraisal of Challenge and Threat Scale (ACT) 日本語版の作成 2
報告の概要	研究目的 および 研究概要	Tomaka, Palacios, Champion, and Monks (2018) による Appraisal of Challenge and Threat Scale (ACT) 日本語版の作成を継続する。ACT はこれまでのストレスに対する認知的評価尺度に存在していた, 関連するストレス反応, コーピング, パーソナリティの交絡要因を取り除き, 純粋に挑戦と脅威についての認知的評価のプロセスを測定しようとする尺度である。昨年度に試作した ACT 日本語版について, 調査対象範囲を広げ信頼性の検討を行う。
	研究の 結果	ACT において用いられる, ストレスを感じる状況を表す質問項目について, 日本においては文化的に馴染まないもの, および日本においてはアメリカとは異なる解釈をされる可能性のある項目が含まれている可能性があり, 項目の入れ替えについて昨年度検討した。本年度は, オリジナルの質問項目を和訳したものに, 新たに日本の状況に合わせて作成・追加した質問項目を加えて, 学部学生を対象に調査を行った。その結果, 学年および年齢が上昇するにつれて, ストレス状況として受け止められない質問項目が減るが, 1年生については Unexpected Events および Social Anxiety の因子に含まれる質問項目が設定しているストレス状況の多くで, ストレス場面としてイメージすることが難しいということが明らかになった。
	研究の 考察・ 反省	これまではストレス状況の認知に文化差が大きく影響していると仮定していたが, 今回の結果から, 社会的経験の多少がストレス状況を理解する上で影響を与えていることが示された。したがって, 次年度は ACT 日本語版作成の補足的研究として, 大学生を対象とした日常のストレスフルイベントを抽出する調査を行い, その構造を検討する。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は, 本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。  本研究課題は継続して検討中であり, 途中経過の報告は予定していない。